

事業計画書

令和6年1月1日から令和6年12月31日まで

特定非営利活動法人隠岐しぜんむら

1 事業実施の方針

地域に密着した自然を通じた諸活動を行うことで、最終的に地域資源である自然も保全されるための活動を目指します。

① 自然環境保全事業

観光関係者、環境省、ジオパークなどが隠岐への観光客誘致活動が本格化し、それに対応しガイド等の需要も拡大している背景の中、活用と保全のバランスとして重要な地域資源である自然環境や動植物をどのように保全していくかの計画をしっかりと整えていくことが最重要な課題となっております。そのためには、その現状を把握するための十分な調査が必須であり、その結果から保全すべき個体及びエリアの洗い出ししていく作業の担い手として当団体は活動していく計画です。環境省、ジオパーク推進機構、各野生生物研究所、地元行政などとの連携を密にしながら、課題の提案を積極的に行っていく必要があると考えております。具体的取り組みとして、次の5項目を今年度の重点実施計画としております。

- (1) 渡りをする鳥類の中継地としての鳥相の調査として海士町金光寺山を中心に実施します。
- (2) セイタカアワダチソウやオオキンケイギクなどの外来種植物の駆除活動を実施。また、タケシマシシウドやオニヒョウタンボク、ホタルカズラなどの希少植物の保全活動に、地元高校生や島体験生をはじめとする地域住民を巻き込むことで、地域の保全に対する理解を進める啓発活動にもつなげていきます。
- (2) 地域自然環境の保全を目的として、環境省自然環境保全地域（自然共生サイト）の認定地を目指します。その第一歩の目標として当団体の拠点がある海士町金光寺山の登録に着手します。そのために、環境省や隠岐ジオパーク推進機構と連携を行い、2か所目、3か所目の目標地域を定め、登録に向けたビジョンの策定にも着手します。
- (3) 当団体が運営にかかわる Ento ジオラウンジにおける企画展を、当団体の学芸員を中心に企画開催していきます。地域の自然保全につなげていけるような内容とし、地域住民がより親しみやすい工夫もちりばめていけるように考慮したものとしていきます。
- (5) 環境省と協働することで隠岐海域の無人島に侵入しているドブネズミの駆除対策を強化し、無人島で繁殖する海洋性鳥類の保全活動を実施します。

② エコツーリズム事業

新型コロナウイルスの影響は緩和されたことにより、観光地域づくりを行う一般社団法人隠岐ジオパーク推進機構、各島の観光協会、旅行業者と協働し、お客様のニーズの多様性に合わせたモニターツアー等を実施し、新たなターゲット層としてインバウンドも視野に入れてエコツーリズム事業の内容充実をはかります。当法人は、一昨年度に無人島での新たなツアーを構築し隠岐諸島内では実施されていない新たなツアーを構築しました。今年度は、前年度までに構築したツアーのガイドの質の向上に引き続き SDGs の観点を取り

入れた学びのツアーの新メニューの構築を行っていく予定です。

③ 環境教育事業

幼児期から高校生までの子どもに環境教育を推進していくために以下の5つの活動を行っていきます。

(1) 自然保育の推進

未就学児向け自然体験活動「お山の教室」は認可外保育園施設となってから6年目を迎え、地域に根付いた取り組みとして定着し、定員に対し申し込み数が多い状態です。活動が安定的に継続していくための財源確保に向けて、一昨年から教育委員会と協議を進めてきた『地方裁量型認定子ども園』に移行は、1・2歳4名、3歳～6歳16名の定員20名を予定し、新たに1・2歳児受け入れを始める予定です。1・2歳児を迎えるにあたってのスタッフの確保、保育方法についての細かい調整を行います。また、移行するにあたって改修工事が必要であり、工事の費用については海士町の予算が確保できていますが、建築スケジュールが確定せず、今年10月もしくは来年4月に移行予定です。

また、昨年度も西ノ島町のみた保育園の遠足や日常の保育活動に自然体験指導者として参加し、山歩きをしながら自然観察や草花遊びをするなどの活動を行いました。今年度も継続的にみた保育園の保育活動に参加すると共にシオン保育園や海士町の慶照保育園にも提案し自然保育を更に推進していきます。

(2) 学校との連携

島前の小中学校の授業において、島根県の「県民参加の森づくり事業（みーもスクール）」を平成27年度（2015年）より活用し、島前・海士町内の森林を通して人と自然環境の関係性を伝えています。また、大地の成り立ち、独自の生態系、人の営みをジオパークの出前授業で学ぶことで、他地域と異なっている地域の個性について学習し、郷土愛が育まれるように努めていきます。

(3) 自然体験活動

隠岐の豊かな自然環境を活用し、自然体験活動を通して自然に親しみ、その不思議さや多様な生命に触れながら学習する活動を行っていきます。

今年度は島前3島の小学生を対象として1泊2日の体験活動を予定しています。漂着ゴミや放置竹林といった隠岐の環境問題や保全についても触れ自分たちの地域について体感的に学べるように計画していきます。

(4) 高校生の自主的な環境保全活動サークルの支援

一昨年度、当団体主催の外来種駆除活動に参加した島前高校生が発展的な活動として自主的な環境保全グループを結成し、海士町産業文化祭で外来種セイタカアワダチソウを活用した染め物体験やお茶の試飲などの出店を行いました。昨年度は、野草食体験・野鳥観察会・放置竹林学習と竹の活用として竹飯ごうなどのイベントを年間4回実施しました。今年度もSDGsの理念を据えた教育活動として、そのグループを支援し、協働して環境保全活動を行うことで地域の課題解決、そして社会貢献活動にも発展させていきます。

(5) 教育旅行向け環境教育プログラム開発

近年、海士町では県外高校生の修学旅行を受け入れや、ジオパーク推進機構でも教育旅行誘致の動きがある。昨年度も新潟の高校生約60名に対してSDGsの視点を踏まえたジオパーク学習プログラムを行った。最近の動向として修学旅行は体験して楽しむことだけでなく、体験から学ぶという学習のニーズが高まっている。そういった学校のニーズに合わせてSDGs学習プログラムを実施すると共に更に学習効果を上げるためにプログラム内容をブラッシュアップさせていきます。

④ 都市農村交流事業

島外者と島民との交流の場として、海士町の研修施設である都市農村交流センターの指定管理の継続を行います。今後、新型コロナウイルスの流行による深刻な影響はあまりないように思われますが、新たな感染症が発生した場合は、新型コロナ対応時の経験を踏まえ島外からの来島者を受け入れます。

島内在住者への施設利用促進としては、引き続き未就学児対象の森のようちえん開催による地域住民の交流の場や、地元の小中学生・高校生の自然体験等、環境教育及びジオパーク学習の学びのための施設として積極的な活用策を計画しています。

また、来島者となりますが地域資源発掘のために、少人数の鳥類・陸産貝類・昆虫類などの研究者および調査員の受け入れを実施します。

⑤ 地域住民生活支援事業

地域生活環境対策として野良猫避妊手術支援活動を行っていきます。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施予定日時 (B)当該事業の 実施予定場所 (C)従事者の 予定人数	(D)受益対象 者の範囲 (E)予定人数	収支予算書 の事業費の 金額(単位: 千円)
自然環境保全事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の野生生物調査活動 ・自然環境保全活動 ・公共事業における助言、調査 	(A) 通年 (B) 隠岐郡内 (C) 4人	(D) 隠岐郡の 住民 (E) 5,000人	3,100
エコツアー リズム事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ジオラウンジガイド運営 ・エコツアーガイドの実施 ・エコツアーガイドの育成 ・地域の観光資源開拓 ・地域の観光推進への助言、補助 	(A) 通年 (B) 隠岐郡内 (C) 4人	(D) 隠岐郡内 の観光関 係者や商 店等、来 島者 (E) 1,000人	6,700
環境教育 事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域未就学児自然体験 ・島外小学生対象自然学校開催 ・島内保小中高校環境教育講師 ・学生、企業、公務員等社会人対象自然環境研修の講師及び助言、補助 	(A) 通年 (B) 隠岐郡内 (C) 13人	(D) 全国 (E) 1,000人	32,100
都市農村交 流事業	<ul style="list-style-type: none"> ・島内者と島外者の交流活動の企画立案 ・研修合宿者の受け入れ 	(A) 通年 (B) 隠岐郡海士町 (C) 4人	(D) 全国から 海士町を 訪れる島 外者 (E) 100人	2,700
地域住民生 活支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域自然災害時の支援活動 	(A) 野良猫対策支 援活動 (B) 隠岐郡海士町 (C) 4人	(D) 海士町内 住民 (E) 20人	0